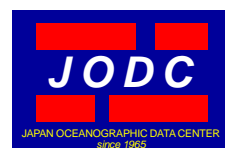


Japan
Oceanographic
Data Center

JP001 – 07 – 3
2007 年 12 月発行



JODC ニュース

No. 74 *Dec 2007*

目 次

- 会議出席報告等 *P. 1*
- リモートセンシングデータ解析研修開催 *P. 5*
- ODINWESTPAC-PPウェブサイト開設 *P. 6*

日本海洋データセンター
(海上保安庁海洋情報部)

第 6 回 NOWPAP/DINRAC フォーカルポイント会合出席報告

日本、韓国、中国、ロシアの 4 カ国が参加する NOWPAP(北西太平洋地域海行動計画)では、それぞれの国に 1 カ所ずつ RAC (Regional Activity Center: 地域活動センター)が設置され、NOWPAP 活動の拠点となっています。中国には DINRAC(データ情報ネットワーク地域活動センター)が設置され、地域の環境情報共有に係る取り組みを行っています。この RAC の取り組みに関する評価や助言を行うとともに、各国の保有する情報の収集に協力することを目的として、各国 2 名のフォーカルポイントが指名されています。これらフォーカルポイントと関係者が集まって協議を行うフォーカルポイント会合は毎年 1 回開催されています。2007 年 5 月 24 日～25 日の日程で、第 6 回目となる NOWPAP / DINRAC フォーカルポイント会合が中国北京市において開催されました。

わが国からは、フォーカルポイントである JODC の佐藤と京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所の白山義久所長の 2 名と専門家として海上保安庁海洋情報部技術・国際課の淵之上海洋情報渉外官が参加しました。また、わが国に設置されている CEARAC(特殊モニタリング沿岸環境評価地域活動センター)の尾川所長と寺内氏も参加しました。



第 6 回 NOWPAP/DINRAC フォーカルポイント会合出席者

DINRAC は、上記のように NOWPAP のなかで、地域でのデータや情報の共有化を促進する目的で中国の国家環境保護総局に設置された RAC です。これまでに、各国のフォーカルポイントの協力を得て、地域の専門家と関係機関のデータベースの作成・運用や、NOWPAP の活動を紹介するためのウェブサイトの構築を進めてきましたが、DINRAC に期待されている「クリアリングハウス」機能(地域で分散保管・提供されている海洋環境データ・情報をネットワークの利用により検索・利用するための仕組み)の整備はなかなか進展していないのが現状です。このため、今回の会合では、その DINRAC の「クリアリングハウス」機能整備に関する活動の進捗状況を検討することと、2008/09 年度の活動計画について検討することが主な議題としてとりあげられました。

「クリアリングハウス」機能に関する事業として以前から動いている活動としては、「メタデータベースフレームワーク構築」と「DINRAC スウィッチボード構築」の 2 つの活動があります。

「メタデータベースフレームワーク構築」活動は、今後 DINRAC において構築していく多種多様なメタデータベースのいわば入れ物を構築する活動で、韓国が担当して 2004/05 年の 2 年間で完成させることが予定されていたものです。2006 年 5 月に開催された第 5 回 NOWPAP / DINRAC フォーカルポイント会合では、2006 年 5 月末には韓国から DINRAC に納品され、2006 年中には稼働を開始するという話でしたが、韓国の担当者が異動して作業が進んでおらず、今回の会議の 2007 年 5 月になっても、いまだ完成していないという状況報告が行われました。このメタデータベースフレームワーク構

築作業が進まなければ、今後、地域の環境情報に関する様々なメタデータを収集しても、それをデータベースとして運用するソフトウェアがないという状況になるため、早急な対応を韓国に求めることになりました。

「DINRAC スウィッチボード構築」活動は、NOWPAP の海洋環境に関するポータルサイトをDINRAC に構築するという活動です。NOWPAP 地域では、海洋環境に関するデータ情報のウェブサイトが各国で構築されているものの、多くはそれぞれの言語(日本語、韓国語、中国語、ロシア語)でサイトが作られているため、他の国の人々にとっては、どんな情報がウェブを通じて行われているかわからない状況です。このため、各国で運用されている海洋環境に関するデータ情報サイトの概要を英語で紹介するポータルサイトを構築して、地域の情報共有に役立てようというものです。

この作業はロシアがリーダー国となって、2006 年に始まりましたが、それぞれの国の認識が一致しておらず、それぞれの負担が大きいことから、今回の会議で、リーダー国であるロシアがポータルサイトの入力様式を改めて提示し直し、それぞれの国で公開されている英語の海洋環境に係るサイトを中心にまず紹介するということとなりました。このポータルサイトへの登録作業は現在順次行われており、2008 年 5 月頃に DINRAC のサイトで公開される予定になっています。

「クリアリングハウス」機能に関する新たな事業としては、わが国がリーダー国として「海洋環境における汚染物質及び栄養塩に関するメタデータベース構築」活動の提案を行うことが前回のフォーカルポイント会合で決められていました。このため、今回、わが国から、地域内で各国が実施する栄養塩、重

金属、PCB 等の海洋環境調査及びそのデータ提供に関する情報(メタデータ)を収集し、韓国が作業を進めているメタデータベースフレームワークに情報を入れることにより、DINRAC がメタデータベースを構築して、維持・運用するという提案を行いました。会議では、特段の意見も無く各国の合意が得られたため、2008 年春までに各国が海洋環境調査に関するメタデータを作成し、とりまとめて、DINRAC に提出することになりました。



わが国による新たな事業の提案

「クリアリングハウス」機能以外の主な議題としては、2008/09 年の新たな事業に関する活動に関する提案がありました。「WebGIS を利用した NOWPAP 地域での油流出事故報告」と「NOWPAP 地域の外来種及びその潜在的影響評価に関する文献調査」の 2 件の提案が行われました。前者は、DINRAC で WebGIS を通じた情報提供を開始しようとする提案で、その題材として、MERRAC(海洋汚染緊急時対応地域活動センター:韓国に設置)が収集した情報を使うというものです。後者は事前の情報無く、会議で初めて名前を知らされたという提案でした。いずれも準備不足ということで、通信を通じて、具体的な検討を今後行うということになりました。

次回の会合は2008年春に中国南部で開催予定となっています。

(JODC 佐藤 敏)

IODE 役員会議 2007 出席報告

2007年11月27日から30日までの日程で、ベルギー王国オステンド市に設置されている IODE プロジェクトオフィスを会場に、IODE 役員会議 2007 が開催されました。この IODE 役員会議は、IODE 共同議長や生物・化学データ管理・交換実施に係る専門家委員会等の委員長等の IODE 役員によって構成される会議で、IODE 会議の決定事項のフォローアップ等を行うことを目的としています。

今回の会議では、IODE の下で各地域において実施されているキャパシティビルディングプロジェクトの ODIN (Ocean Data and Information Network) プロジェクトを主要議題として取り上げることとなったため、各地域の ODIN 調整者が招聘されることになり、2007年3月の第19回 IODE 会議においてパイロットプロジェクトとして実施することが承認された ODINWESTPAC パイロットプロジェクトの調整者である JODC 所長もこの会議に出席することになりました。

会場となった IODE プロジェクトオフィスは、IODE における途上国支援事業を長年にわたり援助を続けているベルギー王国フランダース州政府が、途上国支援事業の中核となる施設の提供を提案し、オステンド市内と水路を隔てたフランダース州海洋研究所に隣接する場所に2005年に設置されたものです。建物は港の倉庫として利用されていた建物の一部を利用したものである。もとは倉庫ですが、研修施設として活用できるように改造され、IT 設備も十分に整っており、快適な環境で会議を行うことができるようになっていきます。

会議は、第19回 IODE 会議のフォローアップのほか、IODE に関する外部評価で示された改善勧告への対応、GOOS との協力、JCOMM との協力、IODE マニュアル・ガイド No.5「データセンターの設立」の改訂等が議題としてとりあげられ、第19回 IODE 会議で共同議長として選出されたオーストラリアの Mr. Greg Reed とチュニジアの Dr. Malika Bel Hassen-Abid が共同で議事を進行しました。

JODC に密接に関係する議題としては、ODIN プ

ロジェクトに関する議題と RNODC (Responsible National Oceanographic Data Center) の将来という議題がありました。

1. RNODCの将来

IODE は、ICSU(国際科学会議)の下に設立された世界データセンター(海洋学)と各国に設置された国立海洋データセンター(NODC: National Oceanographic Data Center)により海洋データ交換を行う仕組みになっています。1970年代に世界データセンターを補助する仕組みとして RNODC という制度が設置されました。この RNODC は、特定の観測項目、プロジェクトや特定の地域のデータ管理を行うことにより、世界データセンターを補助するという役割を果たすもので、JODC は、4つの RNODC、WESTPAC(西太平洋域共同調査)、IGOSS(全世界海洋情報サービスシステム)、ADCP(船舶搭載超音波流速計データ)、MARPOLMON(全世界海洋汚染監視計画)を務めてきました。

しかしながら、2003年から04年にかけて IODE 活動の見直しが行われ、その報告において、RNODC という制度が機能していないので廃止すべきとの結論が出されました。2005年に開催された第18回 IODE 会議において、その報告を受けて、RNODC という制度が廃止され、JODC の4つの RNODC も同時に廃止されましたが、JODC の運営する RNODC 等、一部の RNODC についてはデータの国際交換において重要な役割を果たしているものもあり、即時に廃止すると問題が生じる可能性があるため、当面、その RNODC を運用する NODC はその機能を維持することを要請され、IODE では RNODC の取り扱いを検討することになっていました。

今回の会議で、海面漂流ブイに関する RNODC を務めるカナダは、WMO(世界気象機関)と IOC との共同のメカニズムである JCOMM(WMO/IOC 合同海洋・海上気象専門委員会)の中でその RNODC が重要な役割を果たしていることから、RNODC に代わる制度での位置づけを望み、WMO

もこれを支持しました。

一方、4つのRNODCを運用してきたJODCからは次のような説明を行いました。RNODC-IGOSSの業務については、現在GOOS(全球海洋観測システム)の地域活動であるNEAR-GOOS(北東アジア地域海洋観測システム)のRDMDDB(地域遅延モードデータベース)の中でその機能を維持していることから、IODEではなく、GOOSの枠組みのなかで今後も継続し、ADCPについては、CLIVAR(気候変動及び予測可能性研究計画)のデータ集積センターであることから、今後はCLIVARの枠組みで活動していくことを説明しました。さらにMARPOLMONについては他に何らの枠組みもないが、既にモニタリングプロジェクトとしてのMARPOLMONは存在しないことと、近年データリクエストも全く無いため、RNODCとしての活動を停止し、これまで収集したデータの保管のみを継続すると表明しました。

残るRNODC-WESTPACについては、下で述べるODINWESTPACの一部として、地域データセンターとして機能していくことを表明しました。

以上のような意見を受けて、今後このRNODCの取り扱いについては、IODEの下に設置されている海洋データ情報についてのIOC戦略プランに関する助言グループにおいて、カナダの漂流ブイや日本のWESTPAC等必要とされるRNODCの機能を継続するIODEの制度について提示することになりました。

2. ODINWESTPAC

ODINWESTPACは、前号で既報のとおり、2007年3月に開催された第19回IODE会議において、パイロットプロジェクトとして実施していくことが承認されました。

ODINWESTPACの調整員を務めるJODCからは、ODINWESTPACウェブサイト構築や2007年9月に長崎大学で開催されたNEAR-GOOS - NOWPAP合同リモートセンシング解析研修等のこれまでの進捗状況について説明を行いました。

一方、IODEの下に設置された海洋情報管理専門家委員会(GE-MIM: IODE Group of Experts on Marine Information Management)は、WESTPAC

に加盟する南太平洋の諸島諸国(ソロモン諸島、フィジー、トンガ、サモア)のキャパシティービルディングに数年前より取り組んでおり、南太平洋地域でのODINの設立を模索してきました。これらの国々の海洋研究や海洋調査に関する取り組みは非常に乏しく、管理すべき海洋データもほとんどなく、国の事情も他のWESTPAC地域の国々と異なることから、GE-MIMは、海洋情報(海洋に関する文献)管理能力向上に焦点をあてた南太平洋域ODINを、ODINWESTPACの傘の下に設立する計画を進めていくという提案を行いました。この提案は会議で好意的に受け入れられ、今後、ODINWESTPACの小地域ODINとして南太平洋域ODINを設立していくことになりました。

今後、ODINWESTPACはパイロットプロジェクトから正式プロジェクトに格上げするための提案書を取りまとめ、2008年5月に開催される第7回WESTPAC会議に提案することになっています。この提案書には、小地域ODINとしての南太平洋域ODINの計画も盛り込まれることとなります。

3. その他

前号の記事で第20回IODE会議は中国で開催すると記載していますが、その後、2007年6月に開催されたIOC総会において、IODE等のIOCに設置されている主要な委員会の会議は、総会と平行して3日間の日程で開催することが決められました。このため、第20回IODE会議を中国で開催することはキャンセルとなり、2009年6月のIOC総会にあわせてIODE会議も開催されることになりました。

また、世界データセンターとの協力という議題においては、現在複数の海洋学に関する世界データセンターが存在しているが、それぞれの間の連携が乏しいことや、それぞれのセンターの活動実態の詳細が明らかでないことなどが懸念され、データの重複等の問題が発生しかねないことから、IODEとして懸念する海洋データ管理への悪影響等についてIODE議長からICSUに書簡で伝えることになりました。

(JODC 佐藤 敏)

第1回 NEARGOOS-NOWPAP 合同 リモートセンシングデータ解析研修開催

平成19年9月3日から7日までの5日間、長崎大学において第1回 NEARGOOS-NOWPAP 合同リモートセンシングデータ解析研修が行われました。この研修は IOC/WESTPAC と CEARAC (特殊モニタリング・沿岸環境評価地域活動センター／北西太平洋地域における海洋及び沿岸の環境保全・管理・開発のための行動計画(NOWPAP))の共催により行われた研修で、リモートセンシングデータ解析技術に関する講義、実習に、例年 JODC で行われてきました NEAR-GOOS データ管理研修の内容の一部を加えて構成され開催されたものです。従来の JODC 単独開催の研修とは違い、研修内容、研修会場等の準備のほとんどが CEARAC の事務局により行われ、長崎大学の協力を得て研修会場は長崎大学の視聴覚教室などを利用するなど東京を離れての開催となりました。また準備、進行には長崎大学の学生にも協力を得ることができました。

今回の研修のメインとなるものはリモートセンシングに関するもので、その道の専門家により高度ではあっても解りやすい講義が行われました。

この研修の参加者は JODC、CEARAC それぞれが研修生を募集し、北西太平洋地域から多数応募があった中から、日本、韓国、中国、ロシア、ベトナム、インド、インドネシア、タイの8か国23名が選ばれました。

また講師陣は、日本、韓国、中国、ロシア、アメリカの5か国からリモートセンシングデータ解析の専門家や NEAR-GOOS 調整委員などが参加しました。



この研修の目的は、

- ・ WESTPAC 地域における NEAR-GOOS の概念及びその機能を理解すること、
- ・ 海洋リモートセンシング技術の技術的支援を通じて北西太平洋地域における海洋及び沿岸域の環境モニタリングとアセスメント能力の向上を図ること、

の二つを掲げ、その目的にあわせた研修内容としました。

前者の講義としては、NEAR-GOOS 調整委員により開講式での挨拶を含め、NEAR-GOOS 地域内の海洋データ交換及び地域リアルタイムデータベースの運用に関する講義が行われ、JODC からも同地域遅延モードデータベースや JODC におけるデータ管理、IODE システム等について講義が行われました。

後者の講義としては、リモートセンシングデータに関する衛星画像データ等の入手方法やその画像データを使用する解析手法などの講義が行われました。



研修終了後の研修生へのアンケート調査結果から、今回の研修は初回であったにも関わらず満足度の高いものとして無事終了しました。

(JODC 向仲 英司)

ODINWESTPAC－PPウェブサイト開設

2007年3月12日～3月16日にイタリアのトリエステ市で開催された第19回国際海洋データ情報交換委員会(ICODE委員会)において、西太平洋における海洋データ・情報ネットワーク(ODINWESTPAC)パイロットプロジェクトをスタートさせることが承認され(JODCニュースNo.73参照)、JODCではそのプロジェクトの一環としてウェブサイトを開設しました。

(<http://iodeweb2.vliz.be/odinwestpac/>)

このウェブサイトではパイロットプロジェクトの活動状況、海洋データダウンロードサイトや航海概要報告検索サイトの紹介などを掲載しています。さらに、「OceanExpert (オーシャンエキスパート)」という IODE 事務局が管理している海洋学関係の専門家や機関の情報が検索できるサイトにもリンクさせるなど、学者、研究者などに大変有益なコンテンツを提供しています。

また、このプロジェクトの目的のひとつである西太平洋地域における海洋データ及び情報管理の能力向上のための研修の開催案内なども掲載され、参加を希望される方はこのサイトから情報を得て、参加申し込みすることが可能となります。

現在このプロジェクトは試行期間中ですが、この期間中プロジェクトの運用等に特に問題がなければ、2008年5月に開催予定の第7回 WESTPAC 会議で本プロジェクトとしての承認を受け、このウェブサイトも更に充実したものとなっていくこととなります。

(JODC 向仲 英司)

